

学校に「森林環境教育」を取り入れよう！ — 教員が箕面の森で理解を深める —

箕面森林ふれあい推進センターでは、「森林環境教育」を推進するため、教職員への普及啓発や森林技術指導、森林環境教育プログラムや教材の開発・提供などに積極的に取り組んでいます。

大阪府箕面市教育委員会では、環境教育の推進において「児童・生徒自らが地球規模で生じている環境問題について考え、環境の保全やよりよい環境の創造に向けて、身近なところから具体的に



実践する態度を身につけさせるよう努める」とされていることから、取組にあたって、恵まれた箕面市の自然環境、とりわけ森林を学習に取り入れることの有効性について教職員の理解を深め、指導力の向上を図りたいとしているところです。

ふれあいセンター及び教育委員会では連携して、平成16年から毎年、箕面市内の国有林を活用した環境教育研修（森林環境教育セミナー）を開催しています。

教職員を対象にした森林環境教育セミナーを開催

平成27年度のセミナーは、7月27日（月）に箕面国有林内の「勝尾寺園地」において、箕面市内の小中学校の経験2年目教員27名（小学校17、中学校10）を対象とし、森林環境教育の進め方等の講義と、間伐体験を行いました。間伐体験は「きんきちゅうごく森林づくりの会」が指導してくれました。

開会にあたり、箕面森林ふれあい推進センターの才本所長から、「持続可能な社会を形成していく上で、生態系保全や再生可能な資源生産等で森林が果たす重要な役割を体感し、身につけることができる森林環境教育は大切。このセミナーをきっかけにして、学校教育の場で森林環境教育を実践してほしい」と挨拶しました。



◇京都教育大学の山下宏文教授「森林環境教育の重要性と進め方」を講義

小学校での各教科での森林の扱いや里山森林環境教育のポイント（体験する、知る、かかわる）、今後の森林環境教育の進め方について講義。参加者からは、「童謡や身近なところに森林環境という観点があることを知った」「知識のみだったのが考え方が広がった」など今後につながる意見の外に、「『美しい森林とは』と言われても創造できないくらい自分たちは森林を知らない」との意見など、森林への理解・学習の難しさがある様子でした。



◇大阪府立箕面公園昆虫館の久留飛克明館長「昆虫きらいにならないで」を講義

「昆虫になぜ羽があるのか」「幼虫から成虫への変化のしかたの違い」など、昆虫のすばらしさを自説も交えて講義。参加者からは、「子どもたちに聞かせてあげたい話だった」「昆虫のすごさを知ることができた」などの感想のほか、「教科書だけではわからないことをどう伝えていくか」など、悩みの意見も出されました。



◇体験してみてわかった「間伐」

午後からの間伐体験は4班に分かれ、ノコギリ初体験で木を伐ったり、隣の木に引っかかってなかなか倒れない木に悪戦苦闘するなど、1時間半程かけて各班数本ずつの木を間伐しました。倒した木を持ち上げて、細い木でも重いことを実感し、危険と隣り合わせの作業であることも理解するなど、「身をもって体験してわかったことが多かった」「子どもたちにこの間伐の体験を伝えたい」などの感想が出されました。



◇授業の中で今回の内容を生かしたい！

受講した教職員へのアンケートでは、「セミナーを受講して、森林環境教育は必要だと思いますか？」との質問に対して、小学校教員で回答者17名中12名が必要だと回答し、中学校教員でも回答者10名中9名が必要だとの回答がありました。しかし、実際に授業が行われているかどうかを聞いたところ、行われているとの回答は小学校教員6名、中学教員3名との回答となっており、授業時間の問題や教員に認識がない、などの意見が出されました。

意見の中には「自然環境の中で体験を通じて学ぶ授業はとても楽しく有意義なものと感じた」「環境の授業の中で今回の内容を生かしたい」「国語・音楽などの教科でも森林について考えたい」「子どもたちに自然とどうかかわっていくか考えさせたい」等の意見もあり、今回の体験が実践的な森林環境教育につながることに期待して、箕面森林ふれあい推進センターでは、引き続き実践での支援や体験学習の場の提供などに取り組んでいきたいと考えています。